

ノーリフティングケア 実践報告

特別養護老人ホーム なごみ
ノーリフティング委員会

施設概要

- ・特養利用者定員 50名
 - ・ショートステイ利用者定員 10名
 - ・1Fフロア30名 2ユニット
 - ・2Fフロア30名（内ショート10名）2ユニット
 - ・職員人数 介護 1F・2F 13名
看護 4名
- 入所利用者平均要介護度 4.4

導入のきっかけ

- 職員の高齢化と利用者様の介護の重度化
- 新規介護職員の獲得が難しくなりつつなり、今後の職員不足の懸念
- 職員の腰痛問題

ノーリフティングケア導入前の印象

- 福祉用具を使用するので時間が・・・
- 以前もボードがあったが、使えなかった・・・
- 機械など使うのがなんとなく抵抗がある
- 利用者様の自立支援がなくなるんじゃないの

講師による勉強会

- ノーリフティングケア普及啓発モデル事業について
- 1) ノーリフティングケアとは
 - ノーリフティングケアについて
 - 介護者・要介護者のリスクについて

ノーリフティング委員会立ち上げ

- メンバー
- 施設長・事務長・相談員・ケアマネ・介護主任・看護師長・管理栄養士・各ユニットリーダー・各ユニット職員2名・デイ主任・デイ職員
- リーダー・・・介護主任
- サブ・・・ユニットリーダー

ノーリフティングケア実施計画

- ①長期 ノーリフティングケアの理解と意識の統一（12か月）
短期 委員会メンバーのノーリフティングケアの意識と理解の統一（1カ月）
- ②長期 福祉用具を常時使用（6か月）
短期 福祉用具の使い方を覚える（6か月）

※話し合いの中でメンバー内のノーリフティングケアの知識と理解がバラバラ・・・

ノーリフティング委員会

まずは委員会メンバーの個々の知識と理解を深める必要がある。
メンバーの課題として
「ノーリフティングケアとは」を調べる

委員会の課題

委員会メンバー・職員内での共通のノーリフティングケアの理解を持つ為、なごみにおけるノーリフティングケアの定義を決める

なごみでのノーリフティングケアの定義の確立

- 基本的な考え

持ち上げない・抱え上げない・引きずらない介護を実践しご利用者・職員ともに「身体的・精神的負担のないケア」と「ケアの質の向上」を実現していく

- 目的

福祉用具・機器等の活用だけではなく、正しい介護技術・介護知識を持ちご利用者の自立支援（その人らしい生活）を目指しながらご利用者・職員ともに安心・安全な環境を作っていく。

福祉用具導入（第一回）



講師による勉強会（福祉用具導入後）



福祉用具の指導研修後

- 現状の車いすでは自走式の車いすが多く、スライディングシートが使用できない事、ティルト式車いすにも難しい事がわかる
→今やれることをやろう！
背上げ時にはスライディングシート使用しよう。
ストレッチャーに移乗の時にはフレックスボードを活用しよう

カンファレンスにて

- ノーリフティングケアの定義について説明
- おむつ交換時の姿勢について説明し、ベッドの高さ調整の徹底
- スライディングシートを用いての背上げの方法の説明と実施要請
- フレックスボード使用の要請
- 臥床時の大転子部とベッド関係について説明し、大転子部がベッドの印の上になるように説明する

全ベッドに印をつける



委員会開催（進捗状況確認）

- ターンテーブルは使えているが、一つは初期不良あり。
- ストレッチャーへの移乗時にはフレックスボードは使えているが、使っていない時が多い
- スライディングシート・リクライニング式車椅子移乗介助時にフレックスボードがあまり活用していない状況になっている
- リフトにおいてはほとんど使えていない

福祉用具が使えていない原因

- スライディングシート・フレックスボードの置いている場所を把握できていない。また、すぐに使える場所がない
- スライディングシートが使える車いすが無い
- 使い方がわからない
- 入浴の時にはフレックスボードが使えない
- ベッドが古いタイプで低さ調整に限界あり、車いすと高さが揃わず、スライディングシートが一方向にしか使えない
- 時間がかかる

解決策

- スライディングシート・フレックスボードの置き場所をユニットごとに決め、定位置を決める
- スライディングシートが使える車いすにおいては家族会に協力要請する
- 毎月カンファレンスで福祉用具の使い方を練習する
- 特殊浴用のフレックスボードのような物は無いか、確認する
- 環境の整備においては今すぐには出来ないが、予算を組みながら整備する

解決策

- 福祉用具使用にあたり必要な準備時間はご利用者とのコミュニケーションを取る時間と意識してもらう様にする。また、必要であれば、業務も改善していく

カンファレンスにて

- スライディングシート（上方移動）の使い方の指導を行う
- リフトの使用方法的説明・実践指導を行う
- 福祉用具使用にあたり、利用者の不安感を取り除く為、普段のコミュニケーションの時間を使って説明する。

講師による研修（姿勢の見方）



講師による研修（姿勢の整え方） ポジショニングについて



委員会開催

• 残りの助成金の用途について話し合う

1. スライディングシートが使える車いす
2. ラクラックス
3. ポジショニング用のクッション

この3点に決定

その他

- 家族会からの寄贈を含めて6台車いすを確保できる

福祉用具導入（第2回）





車いす導入後

- 各ユニットから必ず1名はスライディングシートを使用した移乗方法を全職員が必ず行うように決める。
- メンバー数名とスライディングシートを使用した移乗を練習し、どこがポイントになるのか検討する

カンファレンス後のシート移乗練習



ミニリフトの勉強会実施



リフトの勉強会実施



導入後のアンケート結果 改善した意見

- 移乗が楽になった
- ベッドでの上方移動がスライディングシートを使う事により負担が減った
- フレックスボード・リフトを使用する事で担ぐという行動が減り腰への負担が無くなりつつある。
- オムツ交換でベッドの高さ調整を行う事で、腰への負担が減った。
- ターンテーブルを使用する事で、利用者様・職員両方が力を入れずに回転動作出来る為、お互いに楽になった。
- 利用者様の拘縮が少し改善しているように思う。

改善が必要な意見

- 忘れる事がある
- 時間の事を考えると福祉用具を使用せず今までのように介助してしまう
- どのような状態の利用者様に何を使っていいのわからない
- 設備が十分ではない

現場での福祉用具使用

スライディングシート



ターンテーブル



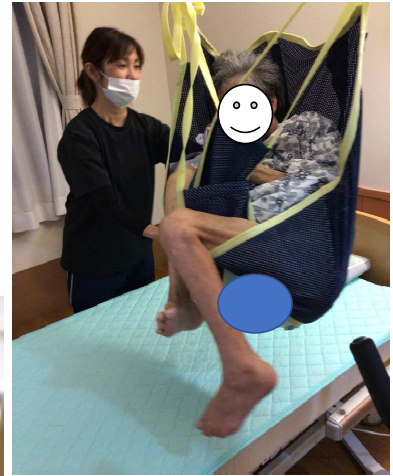
フレックスボード



ミニリフト



リフト



マッスルスーツ (レンタル)



まとめ